

少子化に対応した魅力と活力ある学校づくり ＜小規模特認校制度導入に向けて＞

田村市立都路小学校長 國分 洋

◇ はじめに

都路小中学校運営協議会では、少人数のよさを生かした特色ある教育の実現をめざし、地域再生の核となる学校教育の一層の充実のために小規模特認校制度導入に向けた準備を市教育委員会と連携し、推進しています。

小規模校の強みやよさを最大限に生かしながら、都路小・中学校の特色ある教育を推進し、区域外からの児童生徒の入学を認め、児童生徒数の安定化を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた持続可能なきめ細かな指導による学力の向上及び豊かな人間性を培うことが制度導入の趣旨であります。



1 小規模特認校制度

小規模校における少人数教育のよさを生かしたきめ細やかな指導や特色ある教育活動を子どもや保護者が希望する場合、一定条件のもと、指定された通学区域以外からの入学・転入学を認める制度であり、田村市在住の児童生徒が、本来の通学区域内の小中学校あるいは、都路小中学校に就学することを選択できる制度であります。県内では、会津若松市、いわき市、喜多方市、郡山市、伊達市、西郷村の6市村において16校が「複式学級解消」や「学年単学級改善」を目的に制度を導入しています。



2 基本的な考え方

本制度は「少人数のよさを生かした特色ある教育」の魅力を区域外に住む子どもと保護者に理解いただくことによって、就学希望者を得ることができ、その意味を成します。

本校では『魅力を感じ、通いたくなる学校』の姿を、次のように捉えています。

- 今、通学している子どもたちにとって満足（自慢）できる学校
- 子どもに力をつけ、よさを伸ばす学校
- 都路小中学校ならではの特色ある学校



3 特色ある教育活動の推進

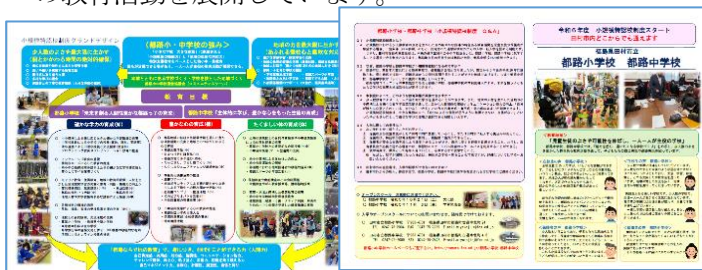
これまでの実践を基盤に、改善を図りながら新たな教育活動の創意工夫と充実を図っています。



＜主な実践＞

- 少人数教育・幼小中一貫教育の充実
(学びをつなぐ授業、園小中交流授業、大学教員による授業、葛尾小中との合同授業等)
- 学校図書館整備と読書活動の充実
(読み聞かせ、選書ツアー、自校推薦図書等)
- 情報教育・ICT機器活用
(タブレット端末・ICT機器活用、プログラミング学習、島根県今福小との交流等)
- 地域とともにある学校、体験探究活動の充実
(里山農園活動、地域伝統行事活動、都路太鼓活動等)
- キャリア教育、復興教育の充実
(「都路の元気、よさ」PR活動、ふくしまジュニアチャレンジへの参加等)
- 体力向上、健康増進活動
(園小合同運動会、業間運動、スポーツ集会、園小中合同地域学校保健委員会、都路スポーツ少年団活動との連携等)

上記の活動を通して「小さな学校 大きな家族」に象徴される「小規模校の機動力」と「地域の柔軟な対応力」の強みを生かしたグローバル（広域交流）でインクルーシブ（共生）な学校をめざし、児童一人一人が主役の教育活動を展開しています。



【特認校制度リーフレット】

◇ おわりに

本制度導入の大前提として、今、在籍している都路っ子にとって、安心安全で、きめ細かな豊かな学びを充実させていくことが最も大切なことと考えます。

すでに制度を導入している各地域では、学校を「地域コミュニティ」の存続発展の中核的な施設として位置付け、地域をあげて、学校教育の充実を図ろうとしています。少子化に対応した持続可能な活力ある学校、地域づくりのために、「地域とともにある学校」のめざすべき姿や可能性を学校運営協議会と連携し、今後も追究してまいります。



【R5.9月「都路の元気PR活動」(日本橋ふくしま館にて)】